

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600094		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	グループホームはるか(1階)		
所在地	帯広市西18条南2丁目6ー4		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年1月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0194600094&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この地域にあることの意義を再考することを今年度のテーマとし、年間を通じて地域の交流する行事の開催や、避難訓練の共同開催、地域ボランティアとの日常的な交流、運営推進会議・広報誌を通じてのさまざまな情報提供などを行っています。

利用者ケアでは、施設理念に沿い、お一人お一人の人柄や得意だったことを活かしながら生活できるようにさまざまな活動、外出支援などを行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道社会福祉総合センター(かでる2・7)4F
訪問調査日	平成22年11月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は帯広駅から西に約4キロ程の場所に位置した静かな住宅地であり、近くには買い物に行けるスーパーや商店街があり恵まれた環境に立地している。また、同じ敷地内に小規模多機能ホームと居宅介護事業所が併設されており、事業所間のスタッフは連携が密に図られており、3事業所は多機能ホームはるかとして一体となってケアに取り組まれており、そのような環境の中利用者は安心して穏やかな日常を過ごしている。事業所内も、居心地の良いスペース作りがされており、利用者の様子からも居心地良く過ごされていることが窺えた。また、地域住民やボランティアの方々が参加しやすいような独自の「感謝祭」等々の行事を行なうなど、地域との関係作りにおいても、3事業所が一体となってイベントを通し地域との接点をもつことを、心がけ地域交流を広げている。管理者は職員の資質向上にも熱心で、外部への研修参加の支援や職員の知識や経験に応じた社内研修も積極的に行い、職員も向上心をもって取り組んでいる。職員は理念の下、常に利用者や家族の思いを大切にケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

社団法人北海道シ...

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念の周知について、役職者中心・全職員と定期的に会議等で振り返りを行ない、実際のケアに活かせる様に取り組んでいる。	玄関に入るとすぐに目が付く場所に大きく独自の理念を掲げており、職員は日常的に理念に立ち返り、理念の具体化に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行なわれている、学校際の参加を始め、老人会のパークゴルフ等に参加させて頂いている。また自事業所での行事にも町内に案内させてもらい交流を行なっている。	町内会に加入し、町内会行事に参加している他、地域住民や地域ボランティアの事業所行事への参加など、良好な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域包括との連携を取り認知症のサポーターの理解を始め、地域でお困りになっている方の相談や適切な場所へと繋げられるよう支援を行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に定期的開催されており、サービス内容の開示や報告を行なっている。会議にて提案されたアドバイスや助言については取り入れて改善を行なっている。	運営推進会議は町内会長、地域包括センター、ボランティア代表、老人クラブ代表、家族代表、等に声をかけ事業所の活動報告等で活発な意見交換を得てサービスの質の向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の施設見学を受け入れたり、介護保険課に情報を頂いたり連携を取っている。敬老会での年間行事にも参加して頂いた。	市の担当者とさまざまな機会を通して情報交換をし連携を深めている。市の担当者が見学に來たり、事業所行事の敬老会にも参加してもらうなど、年々連携が密になってきている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設でマニュアルを作成し全職員に配布している。委員会で身体拘束に当たらないか検証し毎月の各チーム会議で拘束がないか確認を行い施設の全体会議で経過報告や取り組みの周知を行っている。	身体拘束に関するマニュアルの作成、防止委員会の設置、毎月のチーム会議での確認、全体会議での各事業所での取組みや経過状況の報告等を行っており、職員一人ひとりが十分に理解している。夜間は防犯の為に施錠しているが日中は安全に配慮しつつ、施錠は行なっていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の委員会の会議の中で該当ケースがないか日常の介護の中で見逃しがないか等の確認や話しあいを行っている。全職員にマニュアルを配布し虐待防止の周知を行っている。		

グループホームはるか(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設での該当者はいないが施設としての必要性は感じている。今後は勉強会等を設け実際の支援が出来るようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスの利用開始時には必ずご本人やご家族に対しサービスや援助の内容等を充分説明を行い納得を頂いた上で契約をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中に、家族代表を複数名加入して頂き、各行事や運営等に意見を頂いている。防災については、積極的に意見を頂いている。	日常的に利用者の家族から積極的に意見を頂いており、反映させるよう検討している。また、積極的に意見が出しやすいような環境づくりも行なわれている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各事業所ごとの会議等や、役職会議、統括会議等で様々な状況の把握や、運営に関する提案等の検討を行なっている。	都度の会議で、管理者と役職者等々は、意見交換を積極的に行ない、情報を共有しコミュニケーションもスムーズに行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、前後期に渡りスタッフ個々の目標に関する支援の為に面接を行ない、日常的なバックアップを行なっている。親睦会に寄る福利厚生を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内部研修や、けいせい苑での全体研修、外部研修等の機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、小規模多機能協議会、老人福祉施設協議会等の各協議会活動、勉強会、研修会に参加したりしている。		

グループホームはるか(1階)

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者や家族からの情報をもとに、利用者が安心して生活出来る様、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始時に、ご家族の思い、心配事等、話をする機会を設けている。また、来所時にも話をする機会を設け、要望等聞く様心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やご家族にとって必要と思われる事に対し、その方に合ったサービスや関わりを、チーム全体で対応出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来る事、やりたい事を職員と一緒にを行いながら、その中で『生きがい』を感じ、気持ちを利用者、職員と共有出来る様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	開所当初より、本人支援は家族を含めての支援と考えている為、本人、家族の思いを大切にし、日常生活、行事等を通じて一緒に過ごす機会を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が通っていた理・美容室や、友人知人関係とのつながりを大切にしながら、継続していける工夫を行っている。	入居前までの暮らしが維持できるよう、行きつけだった理美容室や、友人や知人などの馴染みの人との関係の継続など、出来る限り支援を行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日ホールで過ごす時間や、皆さんで活動する時間を日々設定し、関わり合える様努めている。関わりが苦手な方に対しては、個々にアプローチしながら輪の中に入る工夫をしている。		

グループホームはるか(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談等いつでも受け入れるが、現在のところその様な事例はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を叶えられる様コミュニケーションの充実、本人の話や家族からの情報をもとに、把握に努めている。	本人の表情や言葉の中から思いを汲み取り常に本人の立場に立って意向を把握することはもちろんのこと、家族からの情報等を基にし、一人ひとりの希望に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め	サービス利用に至るまで得られる情報を収集し、利用開始になってもアセスメントを大切にしているが充分ではない為、見直		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	刺激となるような活動、行事を計画し、それぞれの持っている力を発揮して頂けるよう努めている。合わせて体調管理に努め、心身状況の把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人はもちろん家族、職種を超えて情報交換に努めている。職員同士の情報共有の為、月1回の定期的な会議の開催、チームノートを利用している。	本人や家族の意向を取り入れ、より良いケアの実現に向け、職員同士やチーム全体で情報交換をし、その人らしい暮らしを支えるための具体的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にチーム会議を行い、情報を共有した上で実践に努めている。利用者の日々の様子はファイルに残しているが、それを有効活用するに至ってはいない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人はもちろん、家族からの要望に合わせて、職員全体で把握し、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所での出来事、行事や方向性について、月1回の地域運営推進会議や回覧板での情報発信に努めている。また、年4回、新聞を発行している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向に合わせてかかりつけ医を選択して頂き、納得のもと支援を行っている。また、家族が立ち会えない場合等、必要に応じて、職員引率により通院を行っている。	精神科、皮膚科、歯科等々の訪問診療を行っており、医師とは何でもやりとりが出来信頼関係を構築しており、安心感に繋がっている。また、必要に応じて家族に代わって通院に付き添うなど、必要に応じて柔軟な対応を行なっている。	

グループホームはるか(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤・非常勤で看護職があり、全体の利用者とのコミュニケーションも図れ、健康管理を行っている。体調変化等見られた際は、すぐに報告・相談をし、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関を受診したり、入院する事になっても、家族や医療機関と相談し、以後の対応を協議しながら治療が受けられる様対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、その都度話し合いを行っている。家族と一緒に職員も病院を受診し、医師を交えた相談も行っている。その際の報告書、申し送りで情報の共有を図っている。	重度化や終末期に向けて事業所との方針や具体的内容を文章化されている。重度化した場合には早い段階で終末期について説明を行っており、本人や家族と十分に話し合い、また医師等とも連携し、方針の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法や心肺蘇生法等、赤十字救急隊から指導を頂いているが、定期的ではない。緊急時の連絡・対応マニュアルに沿った対応をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々にも呼び掛け、避難訓練を実施している。日頃より近隣住民との関わりを大切にし、災害時には協力頂ける様お願いしている。	町内会地域住民の協力を得られるよう呼びかけを行なっている。避難訓練や職員通報訓練を実施しており、地域住民の方々に協力してもらっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々暮らしの中で、利用者に不適切な言動がない様、注意し合える関係作りに努め、呼び掛け合いをしている。	職員は常に利用者の立場に立ったケアを心がけている。日常での言葉遣いやトイレ等の誘導時にプライドを尊重しプライバシーに配慮したケアを行なうよう、日常的に職員同士意識し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを第一とし、強制的に行わせない、本人が拒む事は行っていない。本人が理解出来る様話す事は、心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に心掛けているが、現実的には集団生活を営む場であるので、ある程度の時間に沿って頂いている部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容は出張サービスを利用しているが、本人の希望に合わせてお店も利用している。		

グループホームはるか(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好き嫌いを考慮し、代替食を提供している。利用者が出来る配膳・調理等を職員と一緒にやっている。	利用者の意向や能力に応じ、職員と共におやつ作りや食事の準備や後片付けを行っている。また、好みに配慮し代替食を用意するなど柔軟な対応を行い、楽しい食事となるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表を付け、把握している。また、一人ひとりのその日の状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし	食前のマッサージや、食後の歯磨き等、一人ひとりの状況に合わせて行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のリズムに合わせて声掛け、トイレへの誘導を行っている。	その方の排泄の状況を把握して、水分量・食事量などの調節を行なうなど支援を行っている、	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便リズムを把握し、水分量等の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度は個別で入浴日を決めているが、その日の体調や本人の希望に合わせて入浴して頂いている。	入浴は10時～5時頃迄とし、その中で利用者の希望に沿った時間帯に入浴している。また、週2回を基本とし声かけ等の誘導を行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に沿って、安心して眠れる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用している薬について把握し、症状の変化があれば看護師と相談しながら進めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味・嗜好は違うが、ドライブ・散歩等、毎日の活動の時間を利用し、行っている。		

グループホームはるか(1階)

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望があれば、外出・買い物・外食等行っている。また、ドライブ等その日の状況に合わせ、全員で外出する事も多い。	一人ひとりの希望に沿い、利用者のその時の健康状態を見ながら買い物・外食・ドライブ等の外出支援を行なっている。また、全員で外出する機会も多く設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は所持されていない。本人の必要に応じて家族と相談しながら、手渡し、支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけられるシステムになっているが、携帯電話を持参されてる方もおられる。手紙等も、自由に受け取る事が出来る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが居心地の良い、家具の配置等考えながら行っている。	玄関から居間へ直接入る造で居間食堂はワンフロアに繋がっており、壁には利用者の書道他絵などがはられており職員はどの場所からも利用者を見守る事が出来る。明るく居心地の良い環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、自分の座る場所が自然と決まり、その中で一人ひとりがくつろげる場所を提供出来る様努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室は、本人や家族と相談しながら、安心して暮らせる場所作りをしている。今まで使用していた家具等も、利用されている。	居室には利用者の好みや馴染みの物を持ち込み落ち着く空間になるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況に合わせ、その方が安心出来る空間作りを行っている		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600094		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	グループホームはるか(2階)		
所在地	帯広市西18条南2丁目6ー4		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年1月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この地域にあることの意義を再考することを今年度のテーマとし、年間を通じて地域の交流する行事の開催や、避難訓練の共同開催、地域ボランティアとの日常的な交流、運営推進会議・広報誌を通じてのさまざまな情報提供などを行っています。

利用者ケアでは、施設理念に沿い、お一人お一人の人柄や得意だったことを活かしながら生活できるようさまざまな活動、外出支援などを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

社団法人北海道シ...

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念の周知について、役職者中心・全職員と定期的に会議等で振り返りを行ない、実際のケアに活かせる様に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行なわれている、学校際の参加を始め、老人会のパークゴルフ等に参加させて頂いている。また自事業所での行事にも町内に案内させてもらい交流を行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域包括との連携を取り認知症のサポーターの理解を始め、地域でお困りになっている方の相談や適切な場所へと繋げられるよう支援を行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に定期的開催されており、サービス内容の開示や報告を行なっている。会議にて提案されたアドバイスや助言については取り入れて改善を行なっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員の施設見学を受け入れたり、介護保険課に情報を頂いたり連携を取っている。敬老会での年間行事にも参加して頂いた。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設でマニュアルを作成し全職員に配布している。委員会で身体拘束に当たらないか検証し毎月の各チーム会議で拘束がないか確認を行い施設の全体会議で経過報告や取り組みの周知を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の委員会の会議の中で該当ケースがないか日常の介護の中で見逃しがないか等の確認や話しあいを行っている。全職員にマニュアルを配布し虐待防止の周知を行っている。		

グループホームはるか

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設での該当者はいないが施設としての必要性は感じている。今後は勉強会等を設け実際の支援が出来るようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスの利用開始時には必ずご本人やご家族に対しサービスや援助の内容等を充分説明を行い納得を頂いた上で契約をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中に、家族代表を複数名加入して頂き、各行事や運営等に意見を頂いている。防災については、積極的に意見を頂いている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各事業所ごとの会議等や、役職会議、統括会議等で様々な状況の把握や、運営に関する提案等の検討を行なっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、前後期に渡りスタッフ個々の目標に関する支援の為に面接を行ない、日常的なバックアップを行なっている。親睦会に寄る福利厚生を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内部研修や、けいせい苑での全体研修、外部研修等の機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、小規模多機能協議会、老人福祉施設協議会等の各協議会活動、勉強会、研修会に参加したりしている。		

グループホームはるか

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	温かい歓迎の雰囲気づくりをし、安心して頂きながら、本人と話し合いをし、不安な事や要望を聞いている。また、要望を叶えられる様に努力をし続けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、家族と話をする場を設け、不安な事や要望を聞いている。コミュニケーションを図り、安心してサービスを受けられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとって大切にしている事を考えたうえで、今、何が必要かを考え、その方に合ったサービスを選択するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の中で、様々な出来事について笑い合ったり、時には相談したりしている。本人と職員が共同する、私達らしさも大切にするようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、本人の生活状況を伝えたり相談する等しながら、職員と一緒に、本人の生活を支援して頂けるようにしている。行事等で一緒に過ごす機会を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の規制は無く、誰もが気軽に来られるようにしている。馴染みの美容室や床屋などへ行く支援をしている。また、生活歴や会話の中から、会いたい人や行きたい所への思いを汲み取り、実現出来るように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日の中で、お茶の時間やレクリエーション等で、皆さんが関わり合える時間を作っている。関わりが苦手な方に対しては、職員が間を取り持ったり、座席配置の配慮をし、ひとりひとりの気持ちを考えながら支援する様努めている。		

グループホームはるか

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	基本的に、最後をここで迎えられる方が殆どですが、医療施設に移行される場合には、移行先の情報収集など、相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表現する事とは裏腹に、何を思って、その様な言動、行動をとるのかの把握に努め、困難な場合であっても、より思いに近いものを用意し判断させて頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め	基本情報はもちろんのこと、本人談、面会やイベント時にお会いする家族からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペース、可能な範囲ではあります、役割をもって頂き活躍して頂いている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今の本人の状態、希望と、昔からの馴染みの物を織り交ぜ、よりよいケア、楽しみを提供出来るように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その瞬間の言動、行動を逃さぬよう、気づきノートを用いて、利用者の思いや希望の把握に努めている。又、その内容は、チーム会議等で共有、検討し、日々の実施に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	集合体として捉えるのではなく、個人を大切にしている。利用者からの「～したい。」という主体性を大切にし、可能な限り、実施に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔からの行きつけの店の利用や、施設だけでなく外での催しに参加する等、地域との関わりを継続出来るよう支援している。又、施設を利用しての、新たな馴染みの関係の構築に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時の受け入れについての確約を取る事とともに、利用者の小さな変化であっても、通院だけではなく、相談と報告を密にさせて頂いている。		

グループホームはるか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな体調変化でも、施設の看護職員に相談し、日々の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が急病や様態の変化等で、医療機関を受診したり入院したりする事になっても、家族や医療機関と相談し、以後の対応を協議している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については、その都度話し合いを持っている。家族と一緒に病院を受診し、医師を交えて相談も行なっている。その際の報告書などで情報の共有を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法や心肺蘇生法など、赤十字救急隊から指導を頂いているが定期ではない。緊急時の連絡、対応マニュアルで対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々に呼び掛けを行ない、避難訓練を実施している。日頃より、近隣住民との関わりは大切にし、災害時に協力をして頂けるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守るという意識を持ち、関わりの中で、辱める行動や言動がないか振り返り、職員同士が注意し合える関係を作りながら環境づくりをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の目線に立ち、その思い等を晋段から行動や表情から汲み取るようにしている。又、自己決定出来るように、本人に分かるように話をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	習慣やペースを大切に生活して頂くようにしているが、集団生活でもあるため必ずとはいかない事もある。可能な限り行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室などへの外出の支援をしている。外出が出来ない方には、出張美容を利用して頂いている。		

グループホームはるか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に昼食やおやつ作りを行ったり、盛り付け、後片付けなども行なっている。又、好き嫌いを考慮し、代替え食も用意している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立のもと、食事を提供している。一日の食事量や水分を記録する事で、一人ひとりの状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし	食後、声掛けを行なう事で実施して頂き、必要な場合には、職員が手伝っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方は、自分のペースで行なわれるが、中には遠慮してトイレに行きたい事を伝えられない方もいるので、職員がさりげなく声掛けをし促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方の排便状況を常に把握し、食事量や水分量を把握しながら便秘予防に努めている。便秘の際は、看護師に相談し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り、利用者の希望する時に入浴が出来るように努めているが、夜間の入浴は現在対応出来ていない。一人週2回入れるように、本人の希望や体調を第一に考え声掛けを行なっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の換気を行ない、安心して眠れるように、一人ひとりの生活習慣を大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や看護師の指示のもと服薬して頂いている。服薬の際は、名前・日付・時間の確認をし、誤薬の無いよう注意をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を基に、その方に合った役割をお願いしたり、皆でレクリエーションを行ったりして共有の時間作りをしている。		

グループホームはるか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候などにも左右されますが、外出するよう心掛けている。こちらからお誘いして外出する事が多いが、利用者さんの希望で外出することもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こちらでお預かりさせて頂いている方に関しては金庫で管理し、本人の必要に応じ手渡しし支払いしている。出納帳へ記入も行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、お話しして頂いている。その際、ご家族の時間に差し支えないよう心掛けている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を意識し、お花などを飾るようにしている。利用者さんが心地良いと思って頂けるような環境作りを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員の視点からではあるが、気の合う方々同士楽しんで頂けるよう居場所と機会の提供を行なっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さん、ご家族の意向を大切にし、お使い頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が利用者さんの混乱や失敗のないよう細心の注意をしている。失敗に関しては、落ち込まれる事のないよう工夫、配慮を行なっている。		